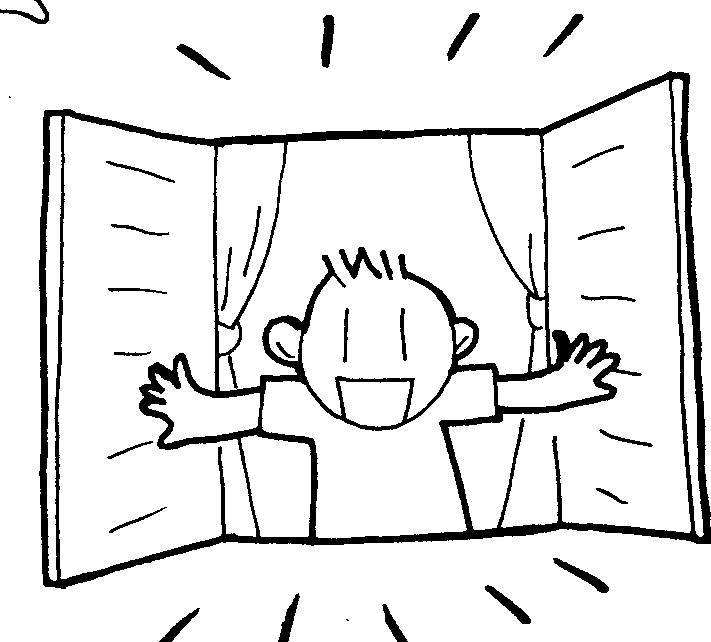
**「子ども」「実践」「学校」　学び合い・語り合いましょう！**

**２０２２年度　滋賀教育のつどい「障害児教育分科会」**

**２０２３年２月１１日（土）**

**10：00～16：30（受付9:15）　場所：ピアザ淡海**

|  |  |
| --- | --- |
| **分科会①** | **肢体に障害のある子どもたち**  **【共同研究者】 　■田村和宏氏（立命館大学）** |
| 1. **Ａちゃんの育ち　【小学部・高学年】　　　　中野亜希さん（草津養護）**   Ａちゃんは現在小学部６年生の女の子。小学部で６年間過ごす中で、自分の活動に気持ちを向け、さらに自分の周りにも気持ちを向けられるようになってきました。そんなＡちゃんの育ちを振り返りたいと思います。   1. **障害の重い子どもたちに伝えたいこと、感じてほしいこと　～ふれる・えがくの学習を通して～　【小学部・低学年】**   **珠久彩さん（八日市養護）**  呼吸器を常時装用している３年生のＡちゃんと１年生のＢくん。健康面の課題が大きく、なかなか登校が積み重ねられません。３年  生になったＡちゃんは、学校で好きなことを見つけて、１日中目がキラキラしていることも！一方で１年生のＢくんは、なかなか学校  に慣れず、登校も減る一方…。保護者の思い、私たち担任の思いと、障害の重い子どもたちにとっての学校って…？を、Ａちゃん、Ｂ  くんの姿から考えていきたいです。   1. **人生の土台をつくってもらった養護学校１２年　　～輝き続ける娘、母もまだまだ奮闘中～　　【卒業後】**   **小川真奈美さん（野洲養護・卒業生保護者）**  　　卒業して早１２年。娘の気持ちを第一に考えてくれた自立活動、家庭の丸ごとへ気持ちを向けてくれた親への声かけ、そうした関わりに救われ今がある。自分らしく輝き続ける娘。コロナ禍リアルも報告しつつ、学校へのお礼と期待をとどけたい。 |
| **分科会②** | **自我・意図・ことばの誕生の時期（１歳半の課題に向かう子どもたち）**  **【共同研究者】 　■白石恵理子氏** |
| 1. **まだ生活の確立していない子どもの入舎を受け入れて【小学部・低学年】　　　　　　　　　　樫本香さん（盲学校）**   今年度、全盲重複の小１の男の子が入学と同時に入舎してきた。昼夜逆転傾向にあり、オムツもはずれていなかったが、受け止めるなかで変わってきている。このような子どもの入舎の意味など、改めて考えていきたい。   1. **Tちゃんとの関係づくり　～Tちゃんを巻き込んだクラス集団を考える～【小学部・低学年】　　茗荷絢子さん（三雲養護）**   教室にいることが少なく個別対応の必要なTちゃん。強い思いを受け止めながら「信頼関係」を築くこと、Tちゃんを巻き込んだ集団作りについて考えていけたらと思います。 |
| **分科会③**  **報告レポート** | **自我・意図・ことばの広がりの時期（１歳半を超え幼児期の課題に向かう子どもたち）**  **【共同研究者】　Aグループ■狗巻修司氏（奈良女子大学）　Ｂグループ■松島明日香氏（滋賀大学）**  **Cグループ■白石正久氏** |
| **＜Ａグループ＞**   1. **ひろしくんとの１年間　～ひろしくんの心の声に寄り添って～【小学部・低学年】**   **山本佳芳吏さん・上村こころさん（草津養護）**  　　面白そうなことを見つけることが大得意な、笑顔いっぱいのひろしくん。しかし最近は友だちが大好きであるが故に思いを強く出してしまうことが増えています。「困った行動」の裏側にあるひろしくんの思いを一緒に考えていきたいです。   1. **Ｒちゃんのこと　【小学部・低学年】　　　　　　　　　　　　　　　　　　　佐々木健太さん（野洲養護）**   小学部３年生の女の子。“大きい自分”への憧れから、当番活動や友だちのお世話に邁進しているＲちゃん。小学部３年間の姿や授業、Ｒちゃんの育ちを振り返りながら、Ｒちゃんをどのように理解して、友だち集団の中でどのように手応えを保障していけばいいか、みなさんと一緒に考えられたらと思います。 |
| **＜Ｂグループ＞**   1. **子どもにとって安心できる関係とは　～こうちゃんとの出会いを通して～【小学部・低学年】　　　淀水晴菜さん（草津養護）**   ３年生で地域の小学校から本校に転学してきてくれたこうちゃん。こうちゃんの好きなことを一緒に楽しみながら過ごす中で、少し  ずつ変わるこうちゃんを見て安心できる関係の大切さを実感しました。子どもたちにとっての安心できる関係をどのように築いていくのか、なぜ安心できる関係が必要なのか考えました。   1. **Sくんとの１年間【小学部・高学年】　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　藤井あすかさん（八日市養護）**   　　小学校から本校に転校してきたＳくん。受け身な姿から、思いをぶつけられるようになってきました。４年生になって、また、違っ  　た姿がたくさん見られるように。「すごいな」と思う姿も、「こまったな」と思う姿もありました。１年間を通してＳくんと過ごして  　きたことを知ってもらい、Ｓくんのことを一緒に考えてほしいと思います。   1. **わくわくする授業を目指して　～授業つくりにおいて、クラスで大切にしていること【小学部・高学年】**   **宮田貴子さん（北大津養護）**  　　「これ、めっちゃ好きやねん」という思いで使っていた教材・題材。子どもたちがノリにのっている、楽しそうという姿を話すこと  　を通してクラスの子どもたちの発達課題にピッタリの教材・題材であることに気づいた。発達的な視点に立って、クラスで何度も学習  　の話を積み重ねてきたことを報告したい。 |
| **＜Cグループ＞**   1. **「歩く」ことが本当にしたいこと？　～Ｅくんから学んだこと～【中学部】　　藤田雄人さん（甲良養護）**   　　学校生活の大半を校外で歩いて過ごす中学部２年生の男の子との出会いから、学んだことや考えたことをお話しします。また、彼に  とって「歩く」ことはどのような意味をもつのかを一緒に考えられたらと思います。   1. **せんせい、あのね…　～顔をみて話すと、ほら！聞こえるハナさんの“ことば”が！！～　【中学部】**   **田中靖子さん、斎藤賢さん、垣見亜紀子さん（長浜養護）**  　聴覚障害と自閉症を併せもつハナさん。もうすぐ中学部を卒業します。笑顔で教師に関わりを求める反面、険しい表情でなかなか次  の行動へ気持ちを移せないことも。高等部へ進学するにあたり、私たちが今まで大切にしてきたこと、ハナさんのみせる姿の意味など  を小１から中３までの９年間を現担、元担の３名で振り返ります。 |
| **分科会④** | **自我・意図・ことばの充実の時期（４歳半の課題を超える子どもたち）**  **【共同研究者】　 ■吉田千鶴子氏（大津市発達相談員）** |
| 1. **“やってみたい”を育む授業と集団づくり～揺れる心に寄り添いながら～【小学部・低学年】　　村木彩乃さん（草津養護）**   鬼滅の刃が大好きなしゅうくんは、“かっこいい自分”への憧れがいっぱいの男の子です。言葉の不明瞭さや手先の不器用さから、  自信のなさがあり、『ふれる・えがく・つくる』の学習カードを見るだけで泣けてくることもありました。しゅうくんの揺れる心に寄り添いながら、やってみたいと思える授業つくりやそれを支える集団づくりについて考えたいです。   1. **Welcome to JAPAN, to our SCHOOL!　～　学校で大事にしたいことって何だろう？～【中学部】**   **阪倉季子さん（八日市養護）**  はちくんにとって、環境が激変した本校への転入。その時、その年に大事にしたいことを悩み、考えながら一緒に過ごしてきました  はちくんの目に映る“学校”はどんな場所でありたいか、“学校”はどんなことを大事にしていきたいところなのか、はちくんから学んだことも含め、考えたいです。   1. **発達的見通しをもった教育実践を目指して　～「４歳の節」の時期を中心に～【小学部・低学年】　岡田徹也さん（草津養護）**   　　タケシくんは友だちや担任のことを考えて気を配ることがとっても上手でした。ちょっと我慢しているかなと心配していると、二学期になって突然授業に入ることをやめてしまいました。タケシくんの思いや願いを想像し、職員集団にも助けられながら試行錯誤の指導や授業づくりについて報告します。ゆきとどいた教育ができる条件整備についても考えたいと思います。 |
| **分科会⑤** | **思春期・青年期の教育実践**  **自己を見つめなおす力を育む時期（９歳の課題に向かう子どもたち）**  **【共同研究者】　■山田宗寛氏（小鳩の家）** |
| 1. **一日一歩　～A君が前に立つ理由～　【高等部】　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　宇野共美さん（聾話学校）**   「無理です。できません」高等部から入学したＡ君。＜できない＞が＜できる＞になるのは、一体誰のため？一歩一歩ぐるぐるする中で、＜やってみても良いかもしれない＞と思える自分を築いていく姿を紹介します。   1. **Ｈが安心できる場『学校』、そして、Ｈが「がんばるぞ！」と思える場『学校』へ　【中学部】　西川哲矢さん（八日市養護）**   　１年生の１年間で、学校生活に意欲的になり、２年生の１年間で、気持ちも強く、勉強も好きになった。そんな育ちをしてきたＨの  姿を中心に、中学部の、思春期の９歳段階で大事にしたいこと、不登校経験者にとっての学校など、の視点で実践をまとめてみたい。   1. **人生に豊かさを　作業学習に学校ならではの生活文化を　【高等部】**   **～障害の重い生徒らと取り組んだ授業実践を通して、青年期教育として大切にしたい高等部の作業学習の中身について考える～**  **長友志航さん（三雲養護）**  　障害の重い生徒らと取り組んだ授業実践を通して、青年期教育として大切にしたい高等部の作業学習の中身についてみなさまと一緒  に考えていけたらと思います。 |

|  |
| --- |
|  |

